

# 遺伝子検査技術 — 遺伝子分析科学認定士テキスト — 改訂第2版

編集：一般社団法人 日本遺伝子分析科学同学院  
遺伝子分析科学認定士制度委員会

B5判、343頁、定価(5,000円＋税)

出版社：株式会社宇宙堂八木書店 2016年発行

本書は、遺伝子分析科学認定士制度審議会(日本臨床検査医学会、日本遺伝子診療学会、日本人類遺伝学会、日本臨床検査自動化学会、日本臨床化学会、日本臨床検査同学院、日本遺伝子分析科学同学院)方式に基づく、「遺伝子分析科学認定士(初級)」取得を目指す方々の受験および学習を支援することを目的として編纂されている。内容はその制度委員会のカリキュラムにそった標準的テキストであり、初版から約8年を経て改訂されたものである。頁数も第2版では343頁と60頁近く増えている。

本書は基礎編と実践編の2部構成となっている。既に遺伝子関連検査に従事している技術者に限らず、様々な分野の教育施設で学んでいる学生にも理解できるように、幅広い情報の中から重要なポイントが厳選されまとめられたものである。

基礎編では、医療系以外の分野の方々にも理解できるように、医学の基礎や遺伝子関連検査のための基本的な知識や臨床的意義などが平易な文章と分かりやすい図表で説明されている。この基礎編だけでも1冊の書籍として充分成立しており、この部分を熟読するだけでも医学の基礎から遺伝子関連検査の総論を学ぶことができる。特に人類遺伝学やラボラトリーセーフティーの項目が初版と比較し明らかに充実している。バイオリスク管理に関して、国際的動向や国際規格を含めた背景が

簡潔に整理・解説されているテキスト(教本)は、私の知る限りでは初めてのものと思われる。

実践編では、遺伝子関連検査に加え染色体検査の方法論やその評価、倫理的問題等に関して非常に丁寧に、しかも文字数の制限を配慮した上で熟考された文章で表現されており、執筆者の熱意が伝わってくる。特に、初版では記載されていなかった「遺伝子検査」という曖昧な文言に代わり「遺伝子関連検査」を使用することの意味とそれを更に分かりやすく細分類し、読者が言葉とその意味の整理を容易にできるように配慮されている。また、本書では現代のコンピュータネットワーク時代に対応するため、「ウェブ上で得られる遺伝子に関連した情報」も新たに記載されている。更に、マスコミでも話題となっているコンパニオン診断薬を代表とするファーマコゲノミクスも充実している。

このように、本書は第一線で活躍されている執筆者により、最新の情報が包括的にまとめ上げられたものであり、遺伝子分析科学認定士(初級)を受験しない方々にとっても、幅広い医学的知識の整理ならびに最新の遺伝子関連検査を学ぶために、是非一読して頂きたい珠玉の書である。

(奥宮敏可：熊本大学大学院生命科学研究部  
生体情報解析学分野教授  
okumiyat@kumamoto-u.ac.jp)